

教授就任のご挨拶

平成二十五年一月一日付



医歯薬総合研究所
超高磁場MRI診断・病態研究部門

教授 佐々木 真理

主陵会の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、平成二十五年一月一日付で、岩手医科大学医歯薬総合研究所超高磁場MRI診断・病態研究部門教授を拝命致しました。本学の共同研究部門の中核の一つである超高磁場7テスラMRI装置に関わる部門を担当させて頂いて頂くこととなり、身の引き締まる思いです。

私は盛岡市出身で、昭和五十九年に本学医学部を卒業後、柳澤融教授(現名誉教授)の本学放射線医学講座に入局致しました。大学院では解剖学第二講座にて井出千束教授(現京都大学名誉教授)のご指導の元、電子顕微鏡を用いた中枢神経損傷の再生に関する研究を行いました。昭和六十三年より中央放射線部の助手として画像診断に関する研究を積み、平成六年には米国立衛生研究所(NIH)に留学してMRIを用いたアルツハイマー病の早期画像診断に関する研究を行いました。平成八年より放射線医学講座の講師となり、玉川芳春教授、江原茂教授

のご指導の元、脳神経画像診断の教育・診療・研究に携わってまいりました。平成十九年に先端医療研究センター(現医歯薬総合研究所)超高磁場MRI研究施設准教授に任用後は、3テスラMRIを用いた脳神経領域の共同研究に軸足を移し、神経メラニン画像などの独自の撮像法を考案して脳神経・精神疾患の画像診断に関する研究を行うとともに、種々の治験、医師主導試験、橋渡し研究にも取り組んでまいりました。平成二十一年には超高磁場MRI診断・病態研究部門の嘱託教授(現特任教授)を拝命し、同年に採

択されました文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「超高磁場7テスラMRIを機軸とした生体機能・動態イメージングの学際的研究拠点」のプロジェクト推進委員長として、7テスラMRIによる学際的共同研究体制の構築と講座横断的研究に注力してまいりました。

7テスラMRIは、単なる高性能装置ではなく、新たな画像診断や脳機能解析の地平を開く次世代型装置と考えら

れます。現在、講座や学部の垣根を越えて、医学部・歯学部・薬学部・共通教育センターの多くの先生方のご協力やご指導を仰ぎながら、新たな検査法・解析法の開発と共同研究に取り組んでいます。中でも、超高解像度MRAによる微細脳血管機能解析、磁化率定量マップングによる脳酸素摂取率・鉄濃度の測定、容積機能的MRIによる全脳賦活解析などは、7テスラ固有の検査法として大きな可能性を秘めており、先生方のお力をお借りして岩手から世界に向けて発信できる技術に高めていくことができると考えております。

医用画像機器の急速な発展は、その陰で想定外の多様性をもたらし、小川彰学長先生が主任研究者を務められた急性期脳梗塞のランダム化比較試験(MELT)Tapanを契機に、標準化の必要性が強く叫ばれるようになりました。私も、厚生労働省研究班(MELT)Tapanなどの活動を通して急性期脳梗塞、無症候性脳病変、動脈硬化性病変などの画像診断の標準化に鋭意取り組んでまいりました。最近では脳濃流解析ソフトウェアの相互精度検証に関する国際共同研究を本学主導で実施し、

一定の成果が上がりつつあります。医用画像の信頼性・普遍性の担保は極めて重要な課題であり、今後も精力的に取り組んでいきたいと考えております。近年著しい進歩を遂げている医用画像解析は、画像診断支援法として今後益々重要な分野となることが予想されます。現在、厚生労働省研究班の活動

として、特発性正常圧水頭症やプリオン病などの早期自動診断支援法の開発に取り組んでいます。また、次世代手法として注目を集めつつある拡散強度画像の解析ソフトウェアを他に先駆けて開発し、神経変性疾患などの超早期診断に関する研究を開始しています。最近ではMEDIO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)のIT融合による新社会システムの開発・実証プロジェクトの採択を受け、次世代医用クラウドシステムによる統合診断支援プラットフォームの開発を産官学共同で推し進めているところです。最先端の解析法を多くの先生方が平易にお使い頂ける基盤を整備することで、広く患者さんの役に立つことができる画像診断支援環境を実現することができればと思っております。

医用画像の進歩は留まることを知らず、研究・診療における意義は益々大きなものとなっておりますが、その実態は複雑を極めカオスの様相を呈しており、今こそ真のプロフェッショナルリズムが強く求められています。これからも臨床に直結する質の高い研究を推し進めるとともに、共同研究部門としての先生方のご研究のお手伝い、若手研究者・研究支援者などの幅広い人材育成、競争的外部資金の獲得などに努め、岩手医科大学の更なる発展に少しでも寄与できますよう微力ながら全力を尽くす所存です。今後とも主陵会の諸先生方の益々のご支援・ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。